

Ⅳ 地域文化と設備の個性を武器に展開

勝冶真美（京都芸術センター プログラム・ディレクター／京都市）

京都芸術センターは、京都の四条烏丸にある小学校であった建物を活用した施設です。

〈資料 1〉京都市の施設として 2000 年に開設し、公益財団法人京都市芸術文化協会が指定管理者として管理運営しています。三つのミッション、「芸術文化に関する情報の収集と発信」、「芸術家と市民あるいは芸術家相互の交流の促進」、「ジャンルを問わない若い世代の芸術家の制作活動の支援」に取り組んでいます。

AIR の事業は、「芸術家と市民あるいは芸術家相互の交流の促進」ミッションのプログラムの一つとして実施しています。ただし、〈資料 2〉に示したように、三つの円が重なるように相互に関係しあっています。

元・小学校とは思えないようなユニークな部屋もあって、大広間は 78 畳の畳敷きです。

〈資料 3〉講堂にしても小学校とは思えない豪華なつくりです。〈資料 4〉元室内運動場だった場所は、現在フリースペースとして使われています。〈資料 5〉この三つの会場では、パフォーマンス、シンポジウム、ワークショップなどを開催しています。京都には市民の寄付で建てられた番組小学校が多く残っていて、京都芸術センターもその一つなのです。

小学校の時代からの和室もあって、展覧会の会場にしたりしています。〈資料 6〉海外の方は、こういう空間での展示をすごく喜ばれます。私たちが制作室とよんでいるさまざまなタイプのスタジオも 12 部屋あります。〈資料 7〉こういう空間を AIR のプログラムでは、ダンサーや美術家、演劇家などの創作活動をされているアーティストに使っていただいています。それぞれの創作スタイルにあった部屋を提供できるように、土足で入れる部屋、鏡がある部屋など、さまざまなタイプの部屋を用意しているのです。

京都芸術センターでは、伝統芸能や現代演劇、コンテンポラリー・ダンス、茶会、展覧会なども行なっています。多様なジャンルの芸術活動をサポートしており、AIR はそれらのプログラムの一つです。これが京都芸術センターの AIR の大きな特徴の一つです。

センターで実施している事業を少しご紹介すると、まず明倫茶会があります。〈資料 8〉京都らしい茶道と他の芸術とをコラボレーションしたお茶会で、多様な方が席主になって開催しています。「創生劇場」は京都市と共に伝統芸能を中心とした新作公演に取り組んでいます。〈資料 9〉伝統芸能家のみなさんを招いて現代美術とコラボレーションしたり、新しい戯曲を創作したりと、新しいチャレンジに取り組んでいます。「わざゼミ」事業は、染色や織り、西陣織の職人さんたちの伝統工芸の技術を学ぶプログラムです。〈資料 10〉

トラディショナル・シアター・トレーニング (T.T.T) の事業は、おもに海外の演劇家やダンサー、日本文学の研究者などが参加者となって、能と狂言、日本舞踊を 3 週間集中的に学んでいただき、最後に発表会を開くというもので、30 年間つづいているプログラムです。〈資料 11〉AIR に参加したアーティストが能に興味をもち、翌年はこのトレーニングに参加して専門的に能を学ぶ人が生まれたりしています。

ほかには、演劇やダンスのプログラムもあります。〈資料 12〉また、二つのホワイトキューブのギャラリーがありますので、年間をとおしての企画展も開催しています。ヴィラ九条山ともいっしょに活動している「ニューイ・ブランシュ」という日仏交流のアート・イ

ベントもあります。〈資料 13〉

AIR とすこし形態が似ている「フェルトシュテルケ・インターナショナル」という事業もあります。〈資料 14〉3 か国のアート・スクールの学生がそれぞれの国に 10 日間ずつ滞在して共同制作を行なうプログラムで、2014 年から開催しています。最初は日本、フランス、ドイツの学生でしたが、2017 年は「東アジア文化都市 2017」で日本では京都市が文化都市として内定したことから、日中韓の 3 か国で開催する予定です。

京都芸術センターのコアになる事業の一つが、制作支援事業です。〈資料 16〉12 部屋の製作室があるのですが、審査のうえ最長 3 か月間無償で提供しています。地元のアーティストが京都芸術センターで常に創造活動を行なっていて、彼らと AIR 参加者とが交流できる場と機会が京都芸術センターにはあるのです。

図書室、情報コーナーにはアーカイブの機能もあります。〈資料 17〉そこでは、ボランティアのスタッフが大きな役割を担っています。現在、300 人ほどのボランティア・スタッフが活動しています。〈資料 18〉展覧会の監修や講演の受付、資料の整理などを行っています。レジデンス・アーティストがいるときは、リサーチの補助や通訳のアテンドなどにも積極的に関わってくださっています。

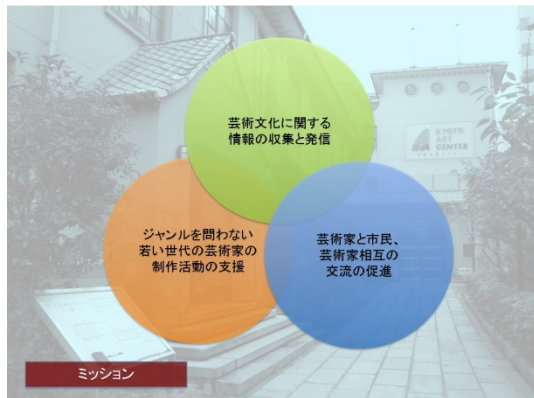
今までご紹介したような多彩なプログラムの一つとして、AIR があります。〈資料 19〉伝統芸能や伝統文化の方とのコラボレーションや他の事業を通じて構築したネットワークなどを通じて、ノウハウを AIR に活かすことができるかなと思っています。

私たちの AIR プログラムには、公募プログラムと連携プログラムとがあります。公募プログラムは、ビジュアル・アーツとパフォーマンス・アーツを隔年で募集しています。連携プログラムでは、プログラムにより異なりますが、アーティスト・フィーが支給されたり、日当が支給されたりします。連携プログラムは 2011 年から始めていて、〈資料 20〉に挙げているような大学、教育機関、フェスティバル、ネットワーク組織と連携して、さまざまな AIR を施行しています。(了)



〈資料 1〉

国際シンポジウム「関西アーティスト・イン・レジデンス in 信楽」
パネル・ディスカッション 2



〈資料 2〉



〈資料 3〉



〈資料 4〉



〈資料 5〉



〈資料 6〉



〈資料 7〉



〈資料 8〉



〈資料 9〉

国際シンポジウム「関西アーティスト・イン・レジデンス in 信楽」
パネル・ディスカッション 2



〈資料 10〉



〈資料 11〉



〈資料 12〉



〈資料 13〉

国際シンポジウム「関西アーティスト・イン・レジデンス in 信楽」
パネル・ディスカッション 2



〈資料 14〉



〈資料 15〉



〈資料 16〉



〈資料 17〉

国際シンポジウム「関西アーティスト・イン・レジデンス in 信楽」
パネル・ディスカッション 2

ボランティア・スタッフ

10代から80代まで約300名が活動、芸術を鑑賞するだけでなく、創造の現場を支えています。

【主な活動内容】
展覧会の監視、公演などの受付、
作品制作の補助、発送作業、図書館の運営など
ボランティアの自主的な活動も活発です。



文芸部の様子



てんとう虫プロジェクト9号 2009年夏の「小学館」ワークショップ風景

〈資料 18〉

アーティスト・イン・レジデンス

国内外のすぐれた芸術家、芸術関係者が
京都に滞在しながら創作や交流を行うプログラム。



Oscar Niemeyer 制作風景



「FIGURE WALKING」
Shoichi Y. Higashimura, J. & M. G. G. Cabrita

〈資料 19〉

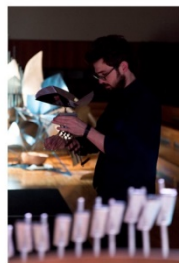
Open Call（公募）プログラム

ビジュアル・アーツとパフォーマンス・アーツ
を隔年で募集
ー宿泊場所、スタジオの提供（最大3ヶ月）
ー制作費（20万円）の補助
ー広報協力
ープログラムコーディネーターのサポート

連携プログラム

上記に加え
ーアーティストフィーの支給
ー日当の支給
等、プログラムにより異なる。

これまでの連携先
京都市立芸術大学、国際舞台芸術祭KYOTO EXPERIMENT、National Performance
Network（アメリカ）、Asialink（オーストラリア）、videobrasil（ブラジル）等



京都芸術センター×京都市立芸術大学
パシフィック電機美術館プロジェクト「Marti Ruiz」

〈資料 20〉